

令和元年スタート 新時代の意気込み



発行所
長野県下伊那郡高森町
下市田 高森町公民館
発行人
高野 正 延
本館編集部
☎35-9416
印刷所
龍共印刷株式会社



地域の活性化をめざして 公民館長 高野正延

この度、公民館長を仰せつかりました、高野正延と申します。生まれも育ちも山吹です。もとは小中学校の教員をしていました。地域の活動に詳しいわけではありませんが、皆様のご協力をいただきながら務めを果たしてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、公民館活動と言えば、多くの方が「地域づくり」という言葉を思い浮かべると思います。そもそも公民館は、戦争終了後に、それまでの地域社会を変えたいと願う人々の活動から始まったといわれています。つまり、公民館活動は地域づくりそのもののなのです。「こんなことをしたら、みんなが興味を持つてくれるのでは...。楽しめるのでは...。」と立ち上げた活動が、自分たちの住んでいる地域を見つめ直したり、人々のかかわりを深めたりすることにつながっていきます。また、行事を行うためには会議や広報も必要で、実施までの過程においても互いの理解を深めます。こうした一連の活動を通して、地域が活性化していくのです。

そんな身近で地道な公民館活動を、皆様と一緒にめざしていきたいと思います。

多くの方々に感謝 大洞利雄

3月末をもちまして公民館長を退任いたしました。平成20年度より11年間という長きにわたり館長を務めさせていただきました。Uターン後のこともあり、皆様方にご迷惑をおかけすることが多々ございましたが、その都度温かいご支援とご協力をいただき、退任をむかえることができましたことに心より感謝申し上げます。

平成20年度からの公民館の活動をまとめた資料、「高森町公民館のあゆみ」に目を通しますと、その事業の1つ1つに支館・分館の役員、住民の方々の努力や自主的な活動がうかがえ、地域のまとまりやつながりの上で公民館活動の重要性を強く感じております。

しかしながら10年ひと昔と言われるとおり、社会情勢は変化してきており、公民館活動のあり方も問われています。ここ数年間は「まなぶ、つどい、むすぶ」という原点に立ち返り、活動を進めてきております。地域の実態に根差した活動、地域の繋がりを一層深める

活動を重視していくことが大事になると思っています。皆様方には長きにわたり大変お世話になり、ありがとうございます。

充実した 文化祭のために



教養部長 弘志

令和元年、はじまりの年に教養部長を務める事になりました新田の原です。どうぞよろしくお願い致します。教養部といえば成人式の裏方と思っていましたが、近年は文化祭に力を置き、作品の展示をはじめステージ発表の運営、特に子どもたち中心に行っている「手作り体験教室」は大人気だと聞いています。準備期間等大変な面もあると思いますが、物作りの楽しさを共に感じていきたいと思っています。町民の多くの皆様に参加していただき、共に盛り上がり感じることのできる文化祭にしていけたらと思っています。

新たなスポーツを



体育部長 安藤謙一

このたび公民館体育部の部長に選出されました山吹上分館安藤と申します。1年間どうぞよろしくお願い致します。

本年度の活動として、スローピッチソフトボール、クラブ、ペタンク大会を予定しています。その中でも、クラブは新たなスポーツで、公民館でも講習会など開催し

とうございました。新しい館長さんを中心に高森町の公民館活動がますます充実発展していけるように努めます。

ながら皆さんに知ってもらうための活動しています。

私もまだ体験したことがないので、実際に見て講習会など参加していきたいと思っています。体育部としても初めてのスポーツなので、とまどうこともありますが、その分皆さんと楽しめると思っています。小さい子どもから高齢者の方まで出来るのでぜひ皆さん参加してみてください。町民の皆さんにはこれからは公民館活動へのご意見、ご協力をいただきたいと思います。1年間どうぞよろしくお願い致します。

2019年度 視聴覚部について



視聴覚部長 古木英男

今年度の視聴覚部の活動計画として、前年度より実施しているVHSビデオテープのデジタル保存を行っているところで、これをDVDにして町民の方々に貸し出しが出来るようにと作業を行っています。

秋口までには視聴覚部で撮影製作した作品の、高森町郷土民俗芸能シリーズ12作品をDVD化して皆様方にご覧頂けるようにと月2回の作業日に励んでいます。近年再撮影を行った祭りも並行して編集を行ってまいりますのでご期待ください。町民の方でビデオレコー

ことと町民の皆様方のご健勝、ご多幸を心よりお祈りいたしまして退任の挨拶といたします。

ドに関してお困りの方がございましたら、町の公民館の事務局を通してご相談ください。良いアドバイスが出来ると思います。

文化祭でのカレンダー作りも毎年盛況ですで行う予定であります。また今年度は早めの部員研修を計画しておりますので、視聴覚部員の知識の向上を期待する所です。1年間の活動がしっかりと形になるように励みますので御協力をお願い致します。

新たな時代の 魅力ある館報



編集部長 青山洋子

高森町が誕生した昭和32年に公民館報第1号が発行されてから、平成、令和へと引き継がれていくタイミングで部長を務めさせていただくことになり、非常に感慨深いものがあります。60年余続いてきた歴史と、編集に関わった方々の思い、伝統を守りながらもマスメディアが進化する中で、公民館報としての役割をどう果たしていくべきか、令和元年を迎えるにあたり、部員の皆さんと考えていきたいと思っています。「まなぶ」「つどい」「むすぶ」という公民館が目指す役割を踏まえつつ、地域密着型の情報発信ができる館報を目指したいと思っています。

スポーツ少年団 結団式

暖かく気持ちの良い青空が広がった4月20日。スポーツ少年団に所属している小中学生が、「高森町スポーツ少年団結団式」に参加しました。壬生町長をはじめ、帯刀教育長、高森中学校長、南・北小学校校長と来賓の皆様のお話があり、「スポーツをするのにとっても良い季節になりました。皆で力を合わせ明るく元気よく目標に向かい楽しんで頑張ってほしい。」と激励がありました。

バドミントンに所属している4年生の男の子は、「お姉ちゃんが入っているのがきっかけで、1年生の時から始めました。体育館を走ったり体力作りが大変だ

けど、今年は南信大会を頑張りたいです。将来は桃田賢斗選手みたいに強くなりたいです。」と大きな夢を笑顔で語ってくれました。同じくバドミントンに所属している6年生の女の子は、「1年生から始めて今年で6年目です。バドミントンで使う色々な『わざ』を練習するのを頑張っています。昨年の南信大会は2位だったので今年は1位をとるのが目標です。」と6年生最後の目標を熱く語ってくれました。4月に入学した1年生の姿も見られ、緊張している子どもたちの姿もありました。今年度、各チームの活躍が楽しみな結団式でした。



それぞれの目標に向かって頑張れ！

リーダー研修会

初夏を感じる様な暖かな4月20日の午後、「育成会リーダー研修会」が町民体育館で行われました。南北小学校の6年生、約80人が参加しました。今回、柿の里SCの方々4人が講師として参加され「4月になりまだ数週間、学校のリーダーになった皆さんですが、緊張せずにまずは自分が楽しむ会にしましょう」とお話がありました。

まずはじめに、数を使った謎解き遊び、手、足、体全体と順に使いながらの体操。3人1組になって次々にメンバーを変えていくゲームなど色々な遊びをしているうちに、硬かった表情が徐々に笑顔になっていきま

した。最後に全員で体育館全体に広がるぐらい手をつないで輪になり、講師の方の指示で全員で前後左右へと動くゲームをしました。全員で息の合った姿を見せてくれました。

その後、各地区に分かれて、今後の目標を話し合いました。これからの行事が色々ありますが、「安全で楽しい地区にしたい」「地域の方々にお世話になるので元気な挨拶をしたい」「低学年のお手本になれるようにしたい」など、今年1年の目標を地区ごとに発表しました。最高学年になり、頼もしい姿を見る事ができた会でした。



頼もしいリーダーたち!!

長野県市町村駅伝大会開催

平成31年4月27日(土)松本市松本平広域公園陸上競技場にて、第29回長野県市町村対抗駅伝と同時に開催で第15回長野県市町村対抗小学生駅伝が行われました。

この大会は、当初長野オリンピック招致を祈願して開催され、そこから歴史を積み重ねてきた大会です。さらに今年は平成最後の記念すべき大会でした。選手も令和を迎えるにあたり意気込んでいました。参加市町村は一般の部52チーム、小学生の部60チーム。高森からもそれぞれ参加しました。

当日は雨が降ったり止んだり、とても寒く息も白く染まる中のレースでした。一般の部は午前10時の号砲により、競技場をスタート。事情により高森は一般の部でオープン参加となりました。走りきりました。一般の部の思いも背負って小学生チームが奮闘しました。昨年、町の部で2位というプレッシャーはあったと思いますが、1区の清水梨里さんが素晴らしいスタートを切り、樗は2区の宮内達矢さんへ。やはり市



小学生は過去最高タイの総合9位！

上市田区

グラブドゴルフ大会

天候にも恵まれ「上市田区組合対抗グラブドゴルフ大会」が4月28日多目的広場にて行われました。午前9時、開会式に続いて区長、分館長の挨拶、競技のルール説明の後、準備体操で体をほぐし、各コースに分かれて9時30分に分館長の合図で競技が始まりました。

競技が始まると1打、1打、ボールを打つごとに上手くなり、他のコースでは、親子のペアでしようか、子供さんが短い距離からグリーンポストへ向けて打つと見

事チップイン。お母さんとハイタッチで「ヤッターネ。」と笑顔。難しいコースでは、男性の方がホールインワン。笑顔でガッツポーズがみられました。他のコースでも何人かの方がホールインワンでお見事でした。

集計時に行われたニアピンゲームでは、大人から、子どもさんまで自由にオープン参加しグリーンポストにめがけて、奮闘しました。子どもさんは、ニアピン賞を取ると、うれしそうにはしゃいでいました。今後



狙いを定めてニアピンゲーム

の親睦を深め区民の皆様が集まり幅広く交流出来る場が増える事を期待します。



「クツブ」は、スウェーデン生まれのスポーツです。両チーム5個ずつのクツブ（角材）を自陣コートに並べ、先攻後攻を決めます。先攻チームは6本のカストピンナ（丸棒）を投げて、相手チームのクツブ（角材）を倒します。相手のクツブを全部倒したらキングを倒せます。先にキングを倒した方が勝ちです。ただし、相手チームに倒されたクツブは、攻撃時に相手コートに投げ入れて、まずはそのクツブを倒さないと元からある相手コート

のクツブは倒せません。その為ゲーム展開はグツと面白くなります。下手投げでしか丸棒は投げられないので、体力差は関係なく、誰もが楽しめるエコロジカルなスロースポーツです。公民館では5月12日の日曜日午後4時から高森ドームで「クツブ」の体験会を開催しました。「クツブ」は7月7日に開催される公民館スポーツ大会の競技種目であり、公民館は昨年から町民に「クツブ」を知り、体験してもらう取り組みを行ってきました。

当日は、各分館の分館役員や町民など100人程の参加者がありました。高野公民館長のあいさつのあ



平成30年第10回 柿の里短歌フォーラム入選歌

小学生の部

さくらぐみそつえんしたけどまたあそびにじゅうさん人ひみつきちでね

一年 佐藤 愛乃

まてたよ休みじかんはたのしくてみんなといっしょになわとびするよ

二年 勝又 康惺

あかちゃんが生まれてくるよ六月にはやくあいたいおれのいもうと

三年 塩澤 輝

キラキラと水面にうつる雲のみなね早苗右手にほうさくねがう

三年 松下 怜央

トイレをねはじめてそうじピカピカに家族のえがおうれしかったよ

四年 木下 結菜

入学式けんかばかりの妹のえ顔見つけて小さく手をふる

四年 岩崎 佑竜

たつきゅうで先生のたまうちかえしすみにきまてとびあがるぼく

五年 高野 紡

きねんじゅのシャクナゲさいたまんかいだばくもがんばるみらいのために

五年 鈴木 拓斗

しまいのかつきあふれるはるまつりばくもししまいてみていたいな

五年 中田 優希

あせをかきボール追いかけてメンバーと入れた得点勝利の喜び

六年 木村 僚介

中学生の部

桜ちる校庭の中歩くとき一歩大人へ近づく気持ち

一年 松村 青悟

このゴール絶対オレが守りきるラスト三分ふるえる両手

一年 光澤 昇汰

晴れた日に自転車こいでのにびりと天竜川に釣りに行く

一年 遠山 悠

新しいノートを持つと思うんだ少し上手に字を書こうかな

一年 梶間 理預

「ふんばれ」と亡き祖父の声よみがえるくじけそうな私の心に

二年 松下 陽音

醤油つけ香ばしく焼いたたけのこの春の味覚が心おどらす

二年 関川 菜摘

うれしくて友との会話続けてる時間を止めて動きを止めて

二年 中塚 豪大

霧雨の優しきしずくの涼しさはすべての命を潤していく

三年 北原 瑠也

「おあがりて」おわん差し出す祖母の手を包み込むよに両手で受ける

三年 宮下 聖菜

くり返す暑さ寒さにとまどいて今朝は一枚肩にかけたリ

三年 浅間 美来

新婚さん今日は

今回ご紹介する新婚さんは、4月に結婚式を挙げられた出砂原の岡本駿汰さん、瑞希さん(旧姓塩澤・飯田市松尾)ご夫婦です。

お2人



岡本 駿汰 瑞希 夫妻(出砂原)

「大和撫子」とおっしゃるのも、趣味の書道、華道からもうかがえますね。もちろん、全てが大和撫子の素敵な女性です。結婚式は、瑞希さんが憧れていた軽井沢での挙式となりました。駿汰さんも「瑞希と家族の幸せな顔が見られて幸せでした」との優しいお言葉で、お写真からも幸せがあふれていますね。

「高校のクラスマッチで、面白いサッカーをしているのを見つけた時が出会いでした。第一印象はお話していて楽しい人。その後、素晴らしい人間性を持ち合

うと、駿汰さんは「人柄全部」瑞希さんも「全部」と相思相愛の仲をうかがえるお返事をいただきました。駿汰さんは、福祉施設でお菓子を作りながら障害者

「大和撫子」とおっしゃるのも、趣味の書道、華道からもうかがえますね。もちろん、全てが大和撫子の素敵な女性です。結婚式は、瑞希さんが憧れていた軽井沢での挙式となりました。駿汰さんも「瑞希と家族の幸せな顔が見られて幸せでした」との優しいお言葉で、お写真からも幸せがあふれていますね。

おぼろげな記憶だが、三浦哲郎が『忍ぶ川』で芥川賞を受賞したのは、昭和三十年代半ばだったと思う。当時の世相には、敗戦から必死で立ち直ろうとする親の世代と、終戦前後に生まれた大勢の若者の漲る力が溢れていた。洗濯機・電気冷蔵庫・テレビも目覚ましく普及し、人々の生活が一変したのである。

芥川賞は作家を志す人の登竜門で、たいていは時代を先取りした作品が選ばれるのに、『忍ぶ川』は東北の奥地から上京した学生である主人公の私と、小料理屋で働く二十歳の志乃との結婚の経緯を描いた古風な物語だ。古風なのは、二人が暮らす家の造りや家具、そして、志乃はいつの時代も日本の男

父が戦地から帰還できなかったもので、わたしは大人になつてからもやりばのない理不尽に苛まれていた。そんなわたしを、三浦作品はいつも癒してくれたのだった。

父が戦地から帰還できなかったもので、わたしは大人になつてからもやりばのない理不尽に苛まれていた。そんなわたしを、三浦作品はいつも癒してくれたのだった。

説 論

5月1日新天皇が即位され、平成から令和へと元号が変わった。昭和から平成への改元時とは異なり、世の中はお上から頂いた10連休という前例のない長期休業の過ごし方に頭を悩ませる楽しみもあった。

諸行事が執り行われた。平成の時代を振り返り、大きな災害が各地で起こり多くの人命が失われることがあった。しかし、戦争のない平和な時代であったと讃えられた。人は平和を希求し、自分の

め何を望んでいるのか。様々な情報の海の中で何が必要で、何が大事なのか、本当のことは何なのか、むやみやたらにつかんで捨てる、見聞きしたことすら新たな出来事が起こると消去更新され、実態のないものに振り回されている。そんな不安定な日々の中でも目の前のやるべき事をこなしながら生きている。

元号は変わっても日々の暮らしは継続し、課題は山積み、悩みは尽きることがない。それでもやはり新たな

節目とは、これから向かう先に希望を託したくなる。確かなものとは何なのだろう。不易なものにすがりたい。そう願っている。久しぶりに会った友人と話をする機会があった。それぞれに何らかの困難を経て今に至り、なお互いの人生も人格も受け入れて共感し合える関係に胸が熱くなった。

時代は変わっても、人が人を求める気持ちはもしかしたら変わらないのかもしれない。

時代は変わっても、人が人を求める気持ちはもしかしたら変わらないのかもしれない。

「令和」のはじめに

反面、連休中の託児や医療機関等の問題がニュースや新聞で取り上げられ、対応策が取られた。このところ週刊誌を賑わせていた皇室は、再び本来の姿に戻り粛々と即位の

太古の時代から変わらなず太陽は東から昇り西へと沈み、1日のなかで生き物が生き死に、人々の暮らしが繰り返されてきた。災害も歴史の向かう先に、何を求

幸せと安住を望む。科学は進歩を続け、未知であったものが明快に示され、AIは開発した人間の知能を超えつつある。人は歴史の向かう先に、何を求

幸せと安住を望む。科学は進歩を続け、未知であったものが明快に示され、AIは開発した人間の知能を超えつつある。人は歴史の向かう先に、何を求

幸せと安住を望む。科学は進歩を続け、未知であったものが明快に示され、AIは開発した人間の知能を超えつつある。人は歴史の向かう先に、何を求

幸せと安住を望む。科学は進歩を続け、未知であったものが明快に示され、AIは開発した人間の知能を超えつつある。人は歴史の向かう先に、何を求

幸せと安住を望む。科学は進歩を続け、未知であったものが明快に示され、AIは開発した人間の知能を超えつつある。人は歴史の向かう先に、何を求

三面鏡

▼今年度、公民館の編集部を引き受けた私。早速初回の編集部で原稿を書く事を引き受けましたが、

締め切り日がGW直後。何をしようかと悩みながら、GWが1日1日と過ぎていきました。▼そして今日、長かったGWが終わろうとしています。焦りに焦り、やっとな清書しています。

▼私には、小学生の息子が2人います。我が子が大好きな事は「走る事」です。そして今、陸上部に入部しています。長男は自ら「長距離走をやりたい」と言い、主に長距離走の練習に取り組んでいます。そんな兄の姿を見て、次男もいずれば長距離走をやりたいとの事。まだ低学年、今は基礎の練習をやっています。

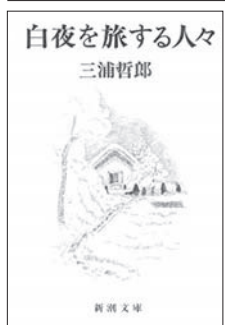
▼陸上の大会、年間通して見ると沢山あります。大会を必ずチェックし、早速スケジュール表に記入。予定に入れます。大会に出る事をとても楽しみにしています。前日は「ドキドキする」

▼大会を通じて、沢山の感動と辛さを味わい、そんな我が子の姿を見る事で、大きな成長を感じます。

▼私も一緒に喜んで泣いたり、陸上を通じて我が子の成長を見る事、大会へ行つて応援する事、これが今の「楽しみ」です。その為には私が元気でいなくてはいけません。頑張れ我が子。

次号616号は「夏休み特集」を掲載します

公民館は地域の魅力(人、行事、歴史等)について知り、共有できる楽しい紙面づくりを心がけています。館報について公民館またはホームページへご意見ご要望をお寄せください。



まちの としょかん

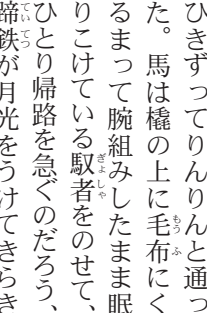
人の数だけ心に残る本がある
読書と私・わたしの一冊③
自分を支えた文学との出会いや、思い出の詰まった一冊を語る、本にまつわるリレーエッセイです。

『忍ぶ川』と三浦哲郎と

後藤 田鶴さん(上市田)

忍ぶ川

三浦哲郎



性が理想として求める、清潔でいきいきとした賢く、しかも従順で可愛い女性である。場末の安アパートや金銭に乏しい人ばかり登場するの、生きるうえの汚れ―

懐疑や嫉妬や苦しさなどがなく、二人の世界は詩的に昇華されている。場面場面に、『この言葉しかない』という表現で読者を堪能させ、しかも、「人生はこうあるべき」という押し付けがましいメッセージがないの。物語のラスト近く、田舎で家族だけの結婚式を挙げた日の夜半に、馬櫓の鈴が聞こえるシーンがある。

「在のお百姓が町へ出て、焼酎を飲みすぎていまごろ村へ帰るのだろう」まひるのようにあかるんだ野道を、馬櫓が黒い影を

ひきずってりんりんと通った。馬は櫓の上に毛布にくるまって腕組みしたまま眠りこけている。馬をのせて、ひとり帰路を急ぐのだろう、蹄鉄が月光をうけてきらきらと躍っていた。

この部分を暗記するほど読んだ覚えがある。三浦は、六人きょうだいの五番めで、二人の姉の自死と二人の兄の失踪という肉親の不幸を背負っている。そうした、離れたくもからみついているものをモチーフに、たくさんの短篇と唯一の長篇『白夜を旅する人々』がある。